



出発前に子どもを抱くりマル医師（左）と山田看護婦
＝岡山市のJR岡山駅で

ルワンダ 医師と看護婦出発 難民救援

内戦のルワンダから大量に流出している難民の医療活動にあたるため、岡山市に事務局をおく「ルワンダ難民救援グループ」（原田豊己代表）が、ザイルのゴマ地区へ、医師と看護婦を派遣することになり、五日午前、JR岡山駅を出発した。

派遣されるのは、岡山市に本部をおくアジア医師連絡協議会（AMDA、菅波茂代表）の会員で、現地で流しているコレラ、赤痢の治療に詳しい岡山大学医学部のネパール人留学生ニル

マル・リマル医師（三三）と、岡山市植津、医療法人アスカ会の山田緑看護婦（三九）。二人は、六日午後成田空港からナイロビにたち、来

週にもザイル北東部のゴマ地区に入る。リマルさんは約二週間、山田さんは約一カ月間、コレラや赤痢の診察などを予定。救援グループからは二日、ハイバード大学留学生の渋谷健司医師（三〇）らがゴマ地区に派遣され、難民キャンプで活動を始めている。